

**Veins
for Life**



**化学療法を受けられる
患者様にポートについて
知っておいてもらいたいこと**

参考文献

- 1). Chernecky C. Satisfaction versus dissatisfaction with venous access devices in outpatient oncology: a pilot study.
Oncology Nursing Forum 2001;28(10):1613-1616
- 2). Bard Access Systems Blinded Mail Survey with Oncology Nurses 2008. At the request of Bard Access Systems, Inc.,
the Oncology Nursing Society randomly selected 1,000 names from its mailing list. From the 1,000 randomly selected names, Bard Access Systems, Inc.,
selected 200 names. A total of 134 surveys were received. The net response rate was 74%. Date on file at Bard Access Systems, Inc., Salt Lake City, Utah.
- 3). Lamont JP, McCarty TM, Stephens JS, et al. A randomized trial of valved vs nonvalved implantable ports for vascular access.
Baylor University Medical Center Proceedings 2003;16(4):384-387
- 4). PowerPort 患者さま用ガイド
- 5). ONS Chemotherapy and biotherapy Guidelines and Recommendations for Practice. 2001 p.49

医療従事者用

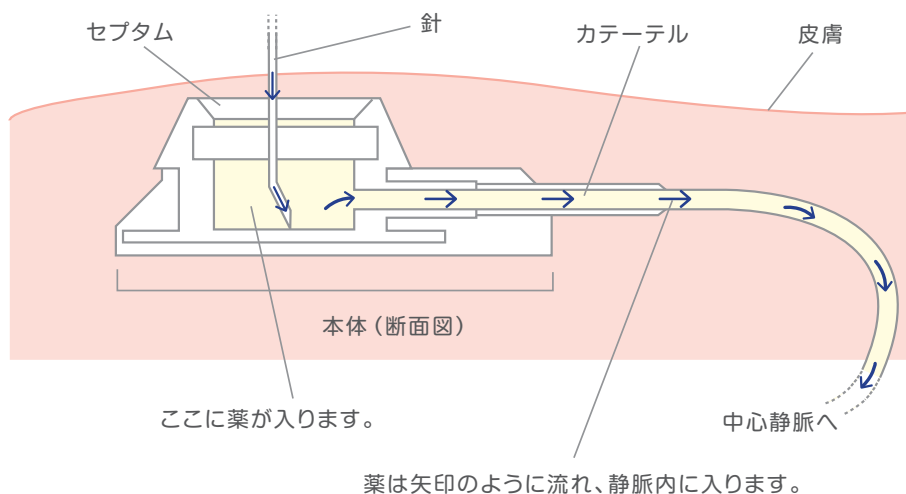


株式会社 メディコン



ポートとは？

皮下埋め込み型ポート（またはポート）は、薬剤を血管内に注入する際に使われ、断続的に長期の点滴療法が必要な患者様の体内に埋め込まれます。埋め込まれたポートはカテーテルと呼ばれる細い柔らかな管と接続しています。薬剤や輸液の投与や採血を行う場合は、セプタムと呼ばれるポートの柔らかい上面に専用の針を刺します。ポートは小規模な外科手術で皮膚の真下に完全に埋め込まれ、カテーテルは血管内に挿入されます。ポートを使用すると、治療中に薬剤の投与や採血の際にたびたび血管にアクセスする必要がなくなります。また、造影CTやCTスキャンに使用できるポートもあります。



ご存知ですか？

ポートは治療の最初から最後まで使用することができます。

Bard Access Systems (BAS) 社が実施した無作為に選ばれたアメリカのオンコロジーナーズの盲検調査によるとおよそ27%の患者様が末梢留置針から化学療法を受けています。¹⁾

末梢留置針より化学療法を受ける患者様のうち59%は、末梢留置針だけで薬液の投与を最後まで完了することができていません。¹⁾

その意味するものは？

- この59%の患者様は、ほとんどの場合、血管の状態がよくないため、末梢留置針を用いて化学療法を受けられませんでした。¹⁾
- 静脈にアクセスできない為、治療が遅れることがあります。
- ポートまたは中心静脈ラインを挿入する処置は現在、患者様へのインフォームドコンセントを行った上で実施されなければなりません。



ある調査で、患者様の10人中9人がポートの使用により、痛みや針刺し回数が減少した、あるいは採血が短時間でされるようになった結果、QOLが改善したと答えています。²⁾

ポートを埋め込む利点は？

皮下埋め込み型ポートには、化学療法を行う他の方法と比較して多くの利点があります。³⁾

普段どおりの生活を送ることができます。

ポートは、皮下に全て埋め込まれているため、シャワーを浴びる、水泳、ジョギング、子供と遊ぶなど、日常の活動を行うことができます。それ以外の特定の活動や、それらを再開する適切な時期については、担当医師または看護師にお尋ねください。

末梢留置針で刺される苦痛は少なくなります。

ポートは一度埋め込まれると、医師が必要であると判断した期間、体内に埋め込まれたままでも問題ありません。ポート自体には、専用の針で刺す必要がありますが、化学療法や採血を受けるたびに、腕や手の末梢静脈を見つけるために末梢留置針で刺される苦痛は少なくなるでしょう。



外見上目立たず、プライバシーを守ります。

埋め込まれたポートは小さく、外見上それほど目立ちません。ポートは露出しておらず、一般的に胸に埋め込まれているため、腕を傷つけることはありません。治療を受けていることを言わない限り、誰にも知られることはありません。

長期間の健康維持をサポートします。

ポートは一般的に胸に埋め込まれているので、それを利用することにより、腕や手の末梢静脈がダメージを受ける可能性を小さくすることができます。これは今後、採血や点滴が必要な患者様にとってメリットになるでしょう。



一体なぜポートを検討するのでしょうか？

もし、化学療法などの治療を受けているのであれば、繰り返し針を刺して薬剤や輸液を直接血管内に流し込むことがあります。また、治療の際に採血が必要になる場合もあります。ポートを埋め込むことにより、これらの処置の際に生じる不快感を軽減できる場合があります。

繰り返し腕や手の末梢静脈に針を刺す、あるいは刺激の強い薬剤を投与することにより、血管が損傷し、徐々にアクセスが難しくなる可能性があります。

ポートを検討すべきでない場合は？

もし、あなたが下記の条件に当てはまる場合、ポートを埋め込むことを検討すべきではありません。

- ・ 感染している、またはその疑いがある
- ・ 血栓ができたことがある
- ・ 適切にポートの埋め込みやアクセスができない体型である
- ・ ポートに使用されている原材料に対してアレルギーがある
- ・ ポートの埋め込む場所が被ばくしたことがある
- ・ 医療デバイスを埋め込むことに抵抗がある

ポートは全ての人に埋め込むことができるわけではありません。上記または他のリスク、ポートまたは他の血管アクセスデバイスが向いているかどうかについては、医師や看護師に相談ください。

ポートを管理する

- ・ 各治療の後や時には治療の間に、ポートとカテーテルは特別な溶液で洗い流す必要があります。
- ・ あなたのポートがどれくらいの頻度で洗浄する必要があるかについては、医師や看護師に相談ください。

ポートを埋め込む

- ・ 主治医がポートの埋め込みを専門とする医師を紹介します。
- ・ ポートの埋め込みは、通常、一般的な麻酔を必要としない小規模の外科的手術で、短期入院か日帰り手術で留置が可能です。
- ・ ポートは皮膚の下に埋め込まれ、血管内に直接挿入されているカテーテルと呼ばれる細くやわらかい管に接続されています。⁴⁾
- ・ 埋め込み型ポートの使用には、小規模の外科的手術、及び血管アクセスに関連するリスクが伴います。起こり得る合併症としては、皮下出血、神経損傷、肺の虚脱、肺周辺に液体が溜まる、血栓の形成、血管の誤穿刺があります。

埋め込まれたポートと末梢静脈デバイスの潜在的なメリットとデメリットを示した調査データによると

メリット



デメリット



患者様は、他のリスクを含めたこれらのリスクについて、ポートまたは他の投与方法が患者にとって適切かどうかを医師や看護師に相談ください。